一御當家には、大臣以前に、外かな物なし、諸家には、大臣已前にも、金物うつ例あり、

〔扶桑略記三十堀河〕寛治二年二月廿二日己亥、太上皇白河○爲拜高野弘法大師廟堂、出於京洛、赴御南京、○中略○藤原師實乘半蔀車、祗候、

〔玉海〕承安二年四月廿八日丙寅、依奈良僧都借請半蔀車、車副四人、牛飼赤衣仕丁、已上皆給當色、牛等、借送之、

〔明月記〕寛喜元年十一月廿四日戊子、明日相國、○藤原道家初著直衣、參內給、○略註半蔀車之眉ヲ如唐棟、被造云々、　廿五日己丑、被出半蔀車、鞦繪小八葉之程五ヲ、袖ニ如五目、被置切物見車也、棟如唐棟、

〔玉葉〕嘉禎三年七月五日、前關白藤原家實言談半蔀車、左右簾ヲバ皆卷上可推張也、而我乘方ノ後許ハ、不上之由見御記、但猶正禮皆可卷上也云々、

〔鹿苑院殿御直衣始記〕康曆二壬子年正月二十日、今日、征夷大將軍從一位行權大納言兼右近衛大將源朝臣義滿、御直衣始也、○中略

御車半蔀、今日御直衣始之次、被用綱代始之間、被用此御車、是又准后藤原良基御計也、

〔榮花物語三十一殿上の花見〕長元四年九月廿五日、女院、○一條后上東門院彰子住吉石清水へ詣でさせ給ふ、○中略讃岐守よりくにの朝臣のつかうまつりたる御車にたてまつりておはします、○中略いだし車三、東宮の大夫、○宗賴權大納言、○家長左衛門のかう、○房師たてまつり給へり、思ひ〳〵なる半蔀車の透きとほりたるなり、

〔狹衣四上〕みそぎの日にも成ぬれば、つとめてより、大殿たちいそがせ給ひて、○略中すき車のすきかげ、心やすく御らんじわたす、

〔台記〕久安六年二月十六日癸亥、禪閤、○藤原忠實乘透輦、四面懸簾、禪閤平生乘用輦也、來余、○忠實子賴長家門外、余參上、依仰乘御車後、

透車